ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション　夏の企画展

浜口陽三と白倉嘉入展

満ちてくる光

HAMAGUCHI Yozo
& SHIRAKURA Kanyu

会期 2026年 5月23日 土 ── 8月2日 日

浜口陽三と白倉嘉入展

満ちてくる光

名作が生まれる前には数々の出会いがあります。
銅版画家と南画家、不思議な取り合わせの二人の物語です。

浜口陽三(1909-2000)は40歳を過ぎてから本格的に銅版画の道を進み、20世紀を代表する版画家になりました。それまでの長い模索期間には、彫塑、油彩、水彩など様々な表現を手掛け、1941年には京都の南画家・白倉嘉入のもとで水墨画を学んでいます。それから十数年後、パリで銅版画が認められた後も、浜口は略歴に、白倉に師事したという一行を加えていました。

新潟に生まれた白倉嘉入(白倉二峰)(1896-1974)は、洋画家を志した後、京都に出て、小室翠雲の門下として近代的な作風で南画の新境地を開きました。戦前の活躍にも関わらず、いつしか作品が散逸し、長く作風がたどれなくなっていましたが、2024年に枚方市の(公財)天門美術館で『白倉二峰展』が開催され、ようやく作家像が見えてきました。今回は初公開の作品も加え、関東でははじめての展覧会になります。二人合わせて約50点の構成です。

それぞれの絵の中には世界があります。
浜口陽三のさくらんぼ、白倉嘉入の水や風のさざめき、絵の中に入るようにゆっくりと眺めると、心の中に沢山の光を感じることでしょう。

＊白倉嘉入の作品は、会期中、展示替があります。

白倉嘉入

SHIRAKURA Kanyu 1896—1974

新潟県生まれ。12歳から南画を学ぶが1912年にみづゑ研究所に入り、水彩画を文展に出品。1917年、南画の道に戻り、京都に移住。1921年、日本南画院創設者の一人となり、小室翠雲に出会う。その後は日本南画院や帝展に作品を発表した。1938年に画塾「欣叡社」を設立。1941年、新文展の審査員に選ばれる。雅号を「二峰」から「嘉入」に改めたのは1940年。

《菊園図》 年代不明 紙本着色 31.4×36.5㎝

《春訪江居》 年代不明 絹本着色 37.0×41.7㎝ (個人蔵)
撮影Tomas Svab

《深林暮色図》 年代不明
紙本着色 149.3×45.8㎝
撮影Tomas Svab

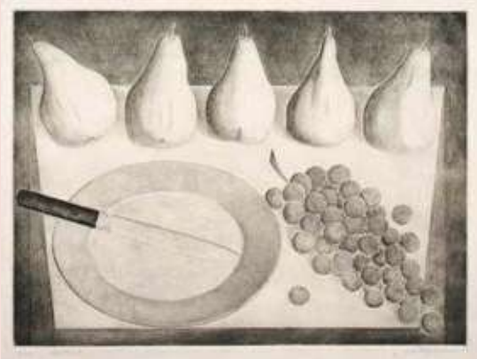
《黒部峡図》 年代不明
絹本着色 131.7×28.1㎝

浜口陽三

HAMAGUCHI Yozo 1909—2000

和歌山県生まれ。東京美術学校彫塑科を2年で中退しフランスへ渡り、油彩、水彩、版画などを独習。第二次世界大戦勃発によりやむなく帰国。水墨画を一時期学ぶ。戦後、東京で本格的に銅版画に取り組み、1953年から再びパリで制作。自ら開拓した技法、カラーメゾチントによる作品によって、国際コンクールのグランプリを次々と受賞し、世界的に活躍した。

《うさぎ(ピンク)》 ca.1954年
カラーメゾチント(二色刷り) 29.3×29.2㎝



《洋梨とぶどう》 1951年 ドライポイント、メゾチント 26.5×36.0㎝

《びんとレモン》 1956年 カラーメゾチント 29.5×34.5㎝

《てんとう虫》 1960年
カラーメゾチント 10.0×7.9㎝

浜口陽三と南画

浜口陽三と南画の関係は深く、陽三の父、ヤマサ第十代当主、濱口儀兵衛は南画の収集家で、小室翠雲(1874-1945)、後半生では波多野華涯(1863-1944)に師事して自らも描いていました。南画は当時の経営者たちが身につけた共通の教養であり趣味でした。さかのぼれば、第五代当主の濱口灌圃(かんぽ)(1778-1837)は、野呂介石に師事した南画家です。本展は、南画をテーマにした3回目の企画展です。

南画家・白倉嘉入は、水墨画を浜口陽三に教えた存在である。白倉は若年には、洋画家を志して石井柏亭に師事したこともある。江戸期に生まれた南画自体、中国の南宋画から発展したものだが、沈南蘋（ちんなんぴん）の写実的な花鳥画や洋画の遠近法を取り入れて、雑食性を発揮するのを憚らない。箏の奏者でもあった浦上玉堂は束縛を嫌い脱藩して国内を自由に移動した。そうした越境性も南画の特性といえる。南画家の蕪村は優れた俳人であるのは周知の通り。浜口陽三も版画以外に美術学校では塑造を学び油彩画を描いた。雑食性と越境性にも無縁ではあるまい。そんな白倉と陽三の二人展、共鳴しあうものを読みとり願いたい。

顧問　林 浩平（詩人、前恵泉女学園大学特任教授）

特別イベント

■ EVENT1　講演会　南画礼賛　講師 林浩平さん

南画とはなにかという基本の話を、やさしく楽しく解説します。
6月27日（土）15:00〜16:30　定員_60名　参加費_入館料＋100円

■ EVENT2　文人風俳句会　主宰 林浩平さん

文人たちの話を交えながらの俳句会。初心者も歓迎します。
7月24日（金）17:00〜18:30　定員_15名　参加費_入館料＋100円
＊会期中に募集した句も加わります。

EVENT1,2　申込方法　6月2日（火）12時から電話またはGoogleフォームにて先着順

■ EVENT3　ギャラリートーク　白倉嘉入について

6月13日（土）14:00〜15:00　波瀬山祥子さん（日本女子大学国際文化学部助教）
予約不要　入館料のみ　当日会場にお集まりください。

■ EVENT4　上智大学箏曲部による箏の演奏会

日時詳細は決まり次第、HPもしくはInstagramでお知らせしますのでご覧ください。

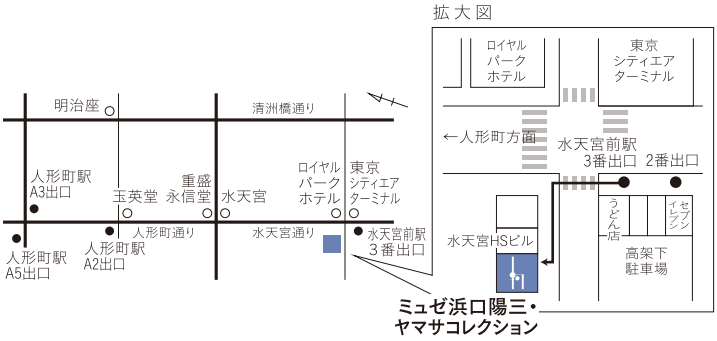
展示会場に **投句箱** があります。
7月24日のイベント（俳句会）で林先生がいくつか選び講評します。

表面作品
左上：浜口陽三　《2つのさくらんぼ》　1958年　カラーメゾチント　19.4×19.3cm
下　：白倉嘉入　《清渓図》　年代不明　絹本着色　89.4×102.8cm　撮影Tomas Svab
右上：白倉嘉入　《深林暮色図》部分　撮影Tomas Svab

休 館 日｜月曜日（ただし7/20は開館）、7/21（火）
※6/27（土）はイベントのため14時にて閉館
入 館 料｜大人600円／大学・高校生400円／中学生以下無料
開館時間｜11:00〜17:00（土日祝は10:00〜）、最終入館16:30
☽ナイトミュージアム…7/24（金）は20:00まで（最終入館19:30）

ミュゼ浜口陽三・ヤマサコレクション

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛎殻町1-35-7　Tel 03-3665-0251



アクセス
東京メトロ半蔵門線［水天宮前］3番出口そば
東京メトロ日比谷線［人形町］A2出口徒歩8分
都営浅草線［人形町］A5出口徒歩10分

Z 10　H 14　A 14

Map English

当館はぐるっとパスに参加しています。

Musée Hamaguchi Yozo: Yamasa Collection